

マツムラゴケ

Duthiella speciosissima Broth. ex Card.

全国カテゴリー；準絶滅危惧

【選定根拠】 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 比較的大型の種である。植物体は黄緑色の美しい蘚で茎はい15cm前後にもなり不規則に分枝する。葉は密に着生し長さ3～4mmの卵状披針形、葉基部は不明瞭ながら耳状となる。葉縁には歯があり葉細胞は狭六角形ないし線形で中央に1個のパピラがある。さくはなかなか見られない。

【分布】 関東以南の本州、四国、九州のほか中国に分布する。

【県内の分布、生育状況】 本州では関東地方以西に分布し福島県が北限である。県内では石灰岩地帯でのみ知られており、いわき市四倉町八茎、原町市新田川溪谷からの報告がある。

【生育に影響を与えている要因】 石灰岩の採掘、河川改修

ヒメタチヒラゴケ

Homaliadelphus targionianus (Mitt.) Dixon et P. de la Varde var. *rotundatus* Nog.

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 茎は長さ数cmになりわずかに分枝する。葉は扁平につき、やや光沢がある。母種に比べ葉は円形で、基部は狭く、長さ0.8～1.0mm、幅0.7～0.8mmの大きさがある。この属の蘚の最も重要な特徴として、葉の基部の後の縁が小舌状となり、耳状に内側に折れ曲がることあげられる。葉縁はほぼ全辺、葉身細胞は長さ20～30μm。雌雄異株。

【分布】 本州、四国、九州のほか中国、ベトナムに分布する。

【県内の分布、生育状況】 鹿島町立石、原町市新田川溪谷の石灰岩上に着生する。どちらかというやや乾燥気味の立地である。日本における北限である。今後、いずれの場所でも生育状況を注意深く見守る必要がある。

【生育に影響を与えている要因】 石灰岩の採掘、道路の拡幅、遷移進行